



## NPO PTPL “ともいき” 便り No.170

令和元年（2019年）5月6日発行

### ■立夏（りっか） 令和元年5月6日から5月20日までの節気

「立夏」の節気に入りました。

私はこの節季の時季が一年で一番好きな時季です。五月晴れの透き通った青空、心地よい風、木々の葉も瑞々しい鮮やかな緑が太陽の光で輝き、多くの花々が色鮮やかさを競うように咲いています。各地の植物園なども多くの来場者でにぎわっています。桜前線もいよいよ北海道へ上陸。

10連休も終盤に入り、旅行や帰省などでさまざまな思い出の新たな1ページを刻んだ方も多いことでしょう。

さて、季節の上では「初夏」、清々しい気分になれるこの時季に、新時代「令和」を迎えることができるのは本当に幸せだと思います。

令和最初の「ともいき便り」をお届けします。気持ちも新たに、季節の移り変わりやその時季にちなんだ情報など日常生活のヒントになるような情報をお届けしていきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、4月30日（火）今上陛下の「退位礼正殿の儀」が執り行われ、天皇陛下として最後のお言葉を述べられました。

そして翌5月1日（木）新天皇陛下の「ご即位に伴い、皇室に伝わる劔や勾玉（まがたま）などを引き継ぐ「劔璽（けんじ）等承継の儀」が簡素のなかにも厳かに執り行われました。

上皇陛下並びに新天皇陛下のお言葉には、絶えず世界の平和と国民の安寧をお祈りいただいたことに心より感謝するとともに、皇室をいただく日本人としての幸せと喜びを改めて感じています。さらに、世界に例のない連綿と続く皇室イコール伝統文化の素晴らしさも感じます。

東西で歴史ある祭りの開催。

この節氣中、東京浅草では東京の三大祭りの一つ「三社祭（5月17日～5月19日の3日間）」、京都では京都三大祭りの一つ「葵祭（5月15日）」が開催されます。

「三社祭」の起源は、正和元年（1312）に行われた「舟祭」にあるといわれ、2012年には700年を迎えました。

一方、「葵祭」の起源は、欽明天皇（540～571年）のとき、凶作に見舞われ飢餓疫病が流行したため、天皇が勅使をつかわし「鴨の神」の祭礼を行ったといわれ、およそ1480年続いています。

両祭とも、初夏の風物詩であり、長い伝統に支えられている祭りです。「三社祭は活気ある動の祭り」、「葵祭は雅で静の祭り」といえますね。

最後に、5月19日が「満月」です。素晴らしい月が見られるといいですね。

佐藤 誠（NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局）

■ともいき・ともうみ・ともさち、そして和。それは日本的なるもの「ジャパネスク」

●日本の心 祭祀と御幸

新たな時代が始まった。

平成の天皇は、退位にあたり「私はこれまでの天皇の務めとして、何よりもまず国民の安寧と幸せを祈ることを大切に考えて来ましたが、同時に事にあたっては、時として人々の傍らに立ち、その声に耳を傾け、思いに寄り添うことも大切なことと考えて来ました」と述べられました。平成の皇室は、国民の幸せを祈り、国民の苦しみに寄り添うことを大切にされてきました。

今上天皇もまた、皇太子殿下として記者会見をされて、「過去の天皇のなさりよりようを心にとどめ、国民のために祈るとともに、両陛下がなさっているように国民に常に寄り添い、共に喜び、共に悲しみながら、象徴としての務めを果たしていきたいと思えます」と語られました。

天皇皇后両陛下は、宮中の祭祀を受け継がれ、年間約20件近くの祭儀が皇居の宮中三殿（神殿、賢所、皇霊殿）で執り行われておられます。また、毎日、日供の儀、毎朝御代拝が行われています。これらの国家の繁栄と国民の安寧幸福を祈る宮中祭祀は、現憲法下では天皇の私的行為とされています。

古くは、天皇が御座所から出御されることを広く行幸と称しました。今日では天皇が国事行為として旅行なされることを行幸、皇后は行啓とされています。平成の時代は、「三大行幸啓」として全国植樹祭、国民体育大会、全国豊かな海づくり大会が行われました。そのほか、両陛下のご希望による国内外のご訪問があります。平成の行幸啓の多くは、両陛下のご意向によるものであります。

昭和天皇は、関東大震災の折、摂政の官として被災地を見舞われました。戦後は復興を目指す各地を行幸されました。平成の天皇の、被災地お見舞い、災害復興状況ご視察は、この時代に始まった、象徴天皇としての公務であります。

平成の天皇は、85歳の誕生日に、「心に残るのは災害のことです。平成3年雲仙・普賢岳の噴火、平成5年の北海道南西沖地震と奥尻島の妻波被害に始まり、平成7年の阪神・淡路大震災、平成23年の東日本大震災など数多くの災害が起こり、多くの人命が失われ、数知れぬ人々が被害を受けたことに言葉に尽くせぬ悲しみを覚えます」と述べられました・

平成は天災の時代であった。昭和の御代も天災がなかったわけではない。戦中は報道が禁止されたし、何よりも戦災の被害は未曾有の甚大さであった。それにしても、平成の天災は多すぎる。そのことは次回に触れる。天災の御代に天皇の公務として被災地お見舞いが繰り返されたことの意味は、改めて問うべき事柄である。それは皇室のみならず、国民全体のこころの在り方に関わってくるといえよう。

廣川勝美（ひろかわ かつみ 同志社大学名誉教授 文学博士）

平成31年4月30日（火）は「平成」最後の日となりました。「激動の昭和「激震の平成」といわれていますが、およそ30年と3か月の平成の時代、皆さんにとってはどういう時代だったでしょう。この連休中、ちょっと考えてみるのもいいのではないのでしょうか？

## 日本 2019 ジャパネスク

日本の歴史を学ぼう。

「もっと知りたい。これが日本、これも日本。」

■事務局便り

- 「令和」最初の「ともいき便り」、気持ちも新たにお届けします。

新しい令和の時代を迎え、日本が世界からますます注目を浴び、長い歴史に裏付けされた日本ならではの精神をもって世界に貢献する時代の到来にしたいものです。

私たちが提唱する「ジャパネスク」に注目、関心が集まると思います。

- 日本というものを基盤において活動する NPO PTPL が企画制作運営するサイト・FB をご覧ください。

「NPO PTPL 公式ホームページ」：<http://www.plantatree.gr.jp/>

「ジャパネスク」：<http://www.japanesque.tokyo/>

「ともいき暦」：<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/>

「タピラス」：<http://www.tapirus.tv/>

「ともいき ぐらし」：<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>

「おらが富士 計画 ふるさと富士山探し」

<https://www.facebook.com/oragafuji/>

「不思議・驚き・魅力のジャパネスク」

<https://www.facebook.com/japanesque.tokyo/>

- 会員募集のご案内

NPO 活動（ジャパネスク運動）を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPL では、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。お力添えのほど、どうぞよろしく申し上げます。

詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAX にてお尋ねください。

NPO PLANT A TREE PALNT LOVE 事務局

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-7-11 東都ビル 201 号

電話：03-6432-5911 FAX：03-6432-5912 Email：info@ptpl.or.jp